

第4章 試験検査

試験検査業務は、行政検査と依頼検査に大別される。

行政検査としては、健康危機管理に伴う検査、食品保健に係る検査、水質検査、臨床検査等を行った。

依頼検査としては、食品検査、水質検査、糞便検査等を行った。

第1節 行政検査

1 健康危機管理

(感染症、食中毒等関連検査)

感染症や食中毒など健康危機の発生に対し、保健所は、迅速に原因を究明し、健康被害の拡大を防止するための初動検査を実施している。

健康被害の発生に伴い、検便や食品等検体について関係項目の検査を実施した(表1)。

このうち健康被害の原因と判明した病原微生物について、血清型、毒素型を示す(表2)。

表1 健康被害発生に伴う検査

平成28年度(単位:件)

検体の種類		便・吐物	食品	ふきとり	計
検体数		153	4	45	202
検査項目	腸管出血性大腸菌	153	—	—	153
	病原性大腸菌	141	—	45	186
	大腸菌群	—	2	—	2
	サルモネラ属菌	96	—	45	141
	腸炎ビブリオ	96	—	45	141
	黄色ブドウ球菌	96	—	45	141
	カンピロバクター	96	—	45	141
	セレウス菌	96	—	45	141
	ウェルシュ菌	96	—	45	141
	ノロウイルス	119	—	—	119
	ロタウイルス	8	—	—	8
	ふぐ毒	—	2	—	2

ノロウイルス・ロタウイルス・フグ毒は保健環境センターで実施

表2 健康被害の原因と判明した病原微生物

平成28年度

発生日	検体	原因病原微生物
H28.6	便	腸管出血性大腸菌 026:H11(VT1)
7	便	腸管出血性大腸菌 0128:H2(VT1,2)
7	便	腸管出血性大腸菌 0121:H19(VT2)
7	便	腸管出血性大腸菌 0121:H19(VT2)
8	便	カンピロバクター
8	便	腸炎ビブリオ
9	便	腸管出血性大腸菌 026:H11(VT1)
9	便	腸管出血性大腸菌 0157:H-(VT1,2)
11	便	腸管出血性大腸菌 0157:H-(VT1,2)
12	便	ノロウイルス GII
12	便	ノロウイルス GII
H28.3	便	ロタウイルス
3	便	腸管出血性大腸菌 0157:H-(VT1,2)
3	便	腸管出血性大腸菌 08:H(VT2)
3	便	ノロウイルス GII

2 食品保健

(1) 食品衛生一斉監視指導等

食品製造事業者等に対し、春・夏・秋期及び年末の食品衛生一斉監視指導に伴う収去食品について、細菌検査を実施した(表3)。

表3 食品衛生一斉監視指導等による収去検査

平成28年度(単位:件)

区 分	食 品			合 計	
	成分規格	県指導基準	その他		
検 体 数	25	60	—	85	
検 査 項 目	細菌数(生菌数)	9	59	—	68
	大腸菌群(定性)	—	13	—	13
	大腸菌(定性)	12	26	—	38
	大腸菌(定量)	4	—	—	4
	腸管出血性大腸菌	—	—	—	—
	サルモネラ属菌	—	45	—	45
	黄色ブドウ球菌	—	45	—	45
	カンピロバクター	—	—	—	—
	腸炎ビブリオ(定性)	—	11	—	11
	腸炎ビブリオ(定量)	14	—	—	14
恒温試験及び細菌試験	4	—	—	4	

(2) 食鳥処理場一斉点検

管内の食鳥処理場1施設について、食鳥処理の工程ごとの拭取り等14検体について細菌検査を実施した(表4)。

表4 食鳥処理場一斉点検

平成28年度(単位:件)

区 分	拭取り	冷却水	合計
検 体 数	13(2)	1	14(2)
検 査 項 目	生菌数	13	14
	大腸菌群数	13	14
	サルモネラ	13	14
	カンピロバクター	13(2)	14(2)
	黄色ブドウ球菌数	13	14

()は検出件数

3 水質検査

海水浴場水について、管内4ヶ所の海水浴場で開設前と開設中の年2回採水し、水質検査を実施した(表5)。

表5 水質検査 平成28年度(単位:件)

区 分		海水浴場水
検 体 数		26
検 査 項 目	pH	26
	COD	26
	糞便性大腸菌群数	26
	腸管出血性大腸菌O157	5

4 臨床検査

(1) HIV抗体検査

免疫クロマトグラフィー法によるHIV迅速検査を106件実施した。